

人材育成課 活動実績(令和5年度)

6NCの疾患横断的研究に付帯する人材育成を推進するために、人材育成課では、6NCの研究支援部門の有機的・機能的な連携促進を通じて、研究水準の向上や業務の効率化に貢献するとともに、疾患横断的な共同研究推進を担う人材の育成に取り組んでいる。

1. 6NC共通教育プラットフォームの支援(表1)

- ・6NC共通教育プラットフォームを通して、疾患領域横断的な人材育成のために、NC横断的な教育コンテンツのWeb配信による教育機会の提供を推進し、令和5年度末までに123コンテンツ配信をオンデマンド配信した。
- ・本プラットフォームで配信中のコンテンツの品質管理と補充のための運営委員会を設立し、運営委員会議を開催した。また、事業運営委員会の会則(案)を作成した。

2. 研究支援人材(生物統計家)の育成支援(図1、2)

- ・若手生物統計家NC連携育成パイロット事業(令和4-5年)を立ち上げ、人材育成のノウハウがあるNCでのOJTによる2名の若手生物統計家の育成支援を行い、令和5年度末に日本計量生物学会が認定する実務試験統計家の資格を得た。

3. 6NC職員の学位取得促進支援

- ・令和3年度の各NCの連携大学院に係る調査、令和4年度の各NC関係者との個別の意見交換会を経て、令和5年度はこれらの調査と意見交換会をに基づき、博士号取得促進のための支援案を作成し、6NCと共有した。

4. 研究倫理申請電子システムの改善に関する支援

- ・各NCの担当事務局および研究者にとってより負担の少ない効率的な倫理審査申請電子システムへの改善等に活用できるよう、現在使用中の研究倫理審査申請電子システムに関する調査を行い、各NCのシステム運用状況を整理し、6NCへ情報提供および各NCの仕様書やマニュアルの共有を行った。

5. 6NCへの英語化支援アプリの導入支援

- ・若手研究者の英語論文作成等の支援として、英語化支援アプリの6NCへの一斉導入の準備を行った。

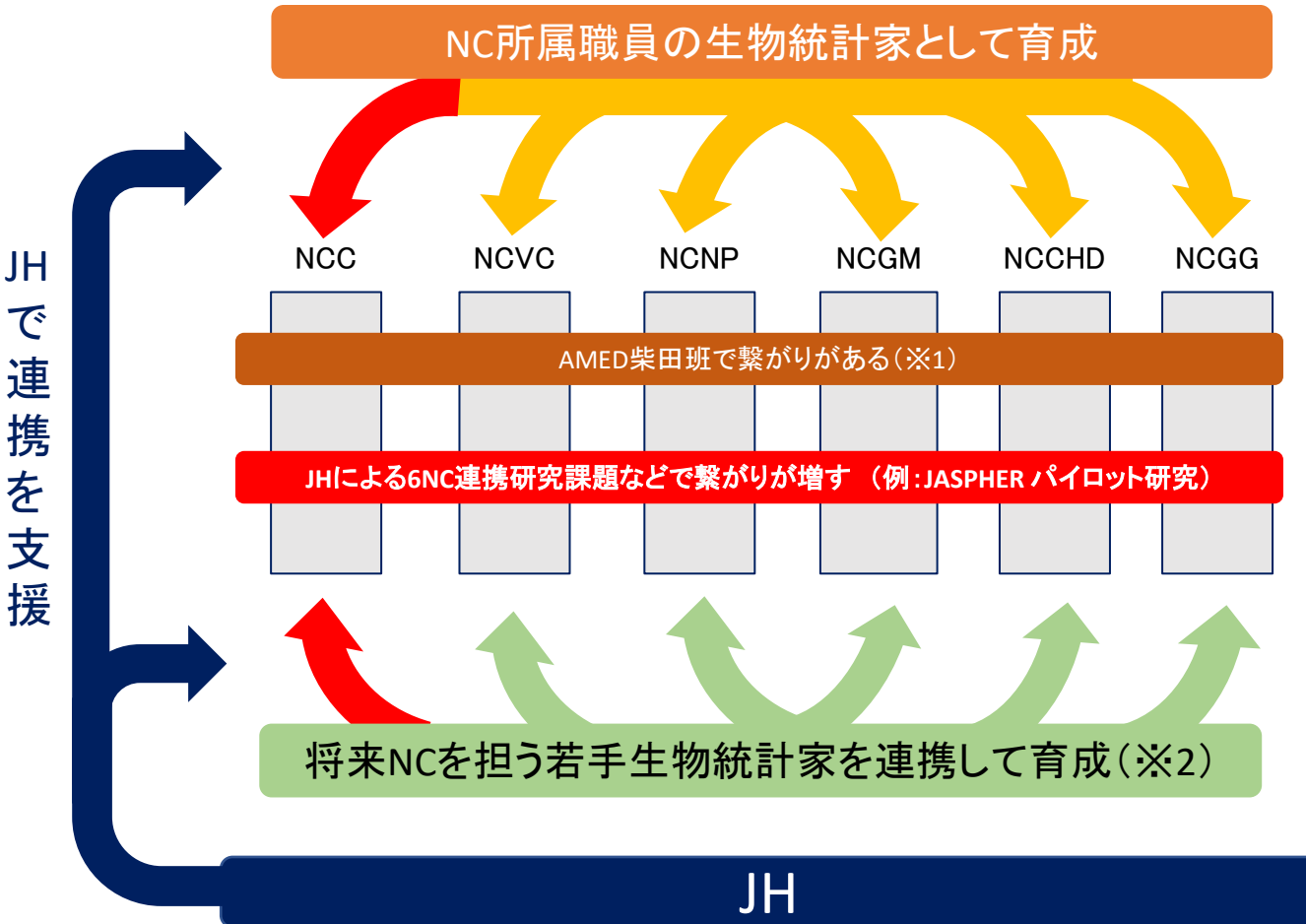
6. 人材育成課カウンターパート(6NC担当者)との連携

- ・人材育成課の取り組みに関して、6NCカウンターパート間での意見交換会を実施し、上記の人材育成の方法や今後の連携について意見交換を行った。

令和5年度にICRwebで配信した6NC共通教育33コンテンツ

	内容	講師	タイトル
1	臨床研究講座	堀之内秀仁(NCC)	がん臨床試験総論
		佐々木哲哉(NCC)	臨床研究のトレンド～DCTって何だろう
		木村香里(NCC)	ゲノム医療～遺伝カウンセリングについて～
		安藤弥生(NCC)	先進医療・患者申出療養とは
		武内 聡(NCC)	最新GCPガイダンス改正／実施に際しての注意事項
		大熊裕介(NCC)	疾患と臨床シリーズ(肺がん)
		原野謙一(NCC)	疾患と臨床シリーズ(婦人科がん)
		齋藤亜由美(NCC)	疾患と臨床シリーズ(乳がん)
2	循環器疾患講座	猪原匡史(NCVC)	RNF213関連血管症：もやもや病を含む日本人に最も多い遺伝性循環器病
		齊藤 聡(NCVC)	稀な脳卒中CADASILに関わる諸問題
3	Office365利用による業務効率化講座	菅沼景子(NCGM)	Office365を利用した申請のオンライン化による業務の効率化と利便性の向上について —NCGMの事例—
4	リポミクス	北 芳博(東京大学)	試料の調製(脂質の抽出・精製の注意点)
5	薬剤耐性(AMR)講座	大曲喬夫(NCGM)	日本における薬物耐性(AMR)対策の現状と今後の展望
		都築慎也(NCGM)	COVID-19の影響と今後の展望
		松永展明(NCGM)	AMRサーベイランスの守備範囲と課題
		藤友結実子(NCGM)	一般国民の抗菌薬に関する知識の現状と今後の教育啓発活動
		AMR臨床リファレンスセンター(NCGM)	AMR e-learning MRSA
6	QMS実装に向けたRBA概念に関する教育研修	田村奈津子(広島大学)	QMS、RBAの概要
		鈴木啓介(NCGG)	非臨床研究中核病院におけるQMSの実装に向けた支援の実例～RBA一步手前の取り組み～
		福田真弓(NCVC)	脳卒中急性期臨床試験におけるQMS/RBA実装の試み
		稲田実枝子(北九州病院機構)	臨床研究のQMS/RBAを医療現場に～臨床研究・医師主導治験の適正実施に向けて～
		小居秀紀(NCNP)	QMS構築/RBA実装の効果を最大化するために
7	認知症シリーズ	堀部賢太郎(NCGG)	軽度認知障害とは
8	データサイエンス研修	岡村浩司(NCCHD)	①プログラミング学習のステップアップを考えている人へ、②Windows Subsystem for Linux (WSL)を設定してMariaDBクライアントを使ってみた、③ウェブアプリケーションフレームワーク Flaskの使い方 前編、④HTMLの構造をオブジェクトとして扱うJavaScriptのDOMの理解、⑤ PythonとSQLAlchemyでデータベースを操作、⑥解読不可能なワнтаイムパッドのPython実装と暗号理論の基礎の理解
		青砥早希(NCCHD)	Amazon EC2上にWordPressで構築したWebsiteを移植する際のTips
9	知的財産セミナー	JH知財・法務課	知的財産セミナーシリーズ2 研究者が知るべき著作権法の基礎
10	6NCバイオバンクネットワーク(NCBN)	NCBN	①National Center Biobank Network(NCBN)について、②What's NCBN?(英語版)

JHが取り組む6NC横断的生物統計家人材育成イメージ

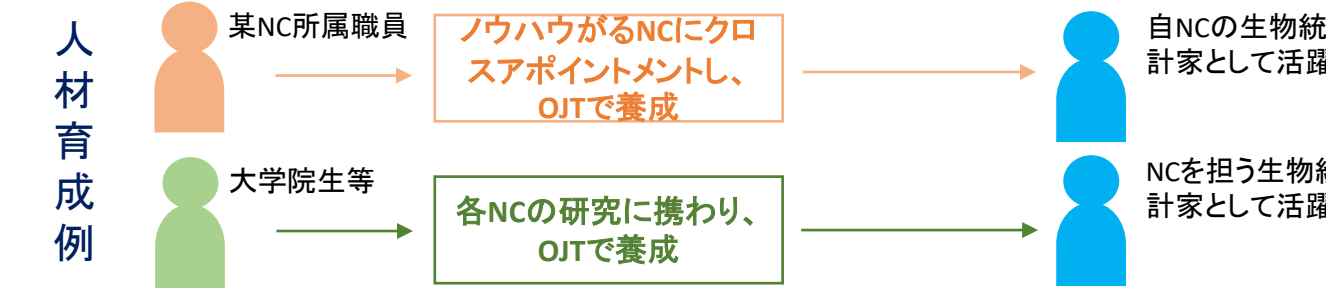


自NC所属職員を、生物統計家育成のノウハウがある他NCへ週1回クロスアポイントメントするなどして育成

- 疾患領域横断的で視野の広い生物統計家の育成が可能
- 各NCの生物統計部門の連携が促進され、疾患領域横断的な研究が推進。
- 実務試験統計家の資格(臨床中核病院で求められる)を取得することで、本人にとってもその後のキャリアにつながる

生物統計家を目指す大学院生(修士～博士課程)やポスドクを、NCで研修・育成

- 各NCが担う医療的・社会的課題解決のための研究を遂行できる人材を長期的に育成
- 若手の内に各NCの研究に携わることで、将来的に各NCの生物統計部門を担う人材へ



※1 AMED柴田班 (R1-R3) 医薬品等規制調和・評価研究事業患者レジストリーデータを用い、臨床開発の効率化を目指すレギュラトリーサイエンス研究
 ※2 AMED生物統計家育成事業(H28-R2)等で東京大学大学院、京都大学大学院、東京理科大学大学院、などとの大学との連携実績あり

JHで連携を支援

人材育成例

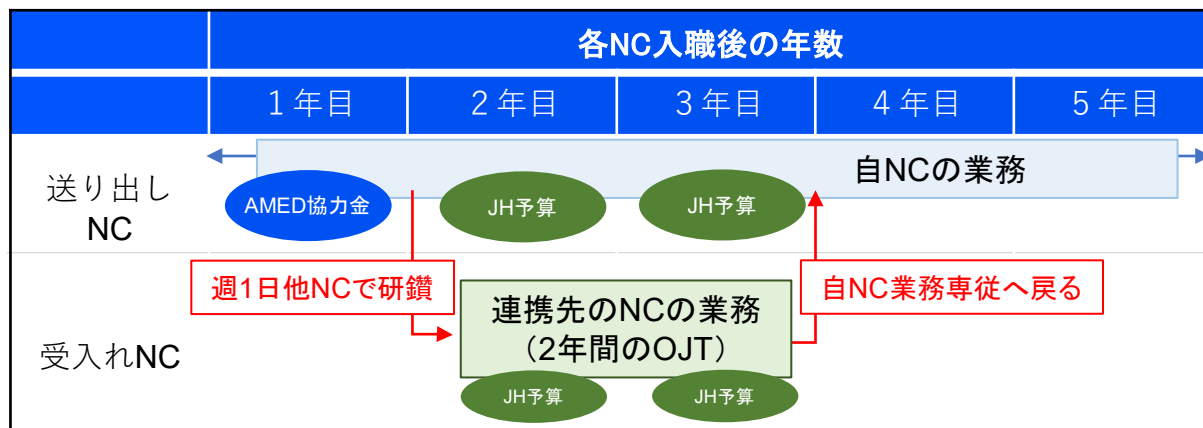
若手生物統計家NC連携育成事業

事業概要

- ・国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部（JH）人材育成課は、各NCの人材育成に関わる部署との連携を図り、研究支援人材の育成支援体制の構築に取り組んでいる。
- ・令和2～3年にかけて各NCの生物統計部門の人員体制や業務内容を調査、および6NC生物統計部門の担当者との意見交換会を行い、NC連携による育成支援に必要な情報の収集と整理を行った。
- ・その結果、各NCによる差異や特性が明らかとなり、他NCでのスキルアップ研修や疾患領域横断的な研究経験が、若手生物統計家の中・長期的な育成とNC間の指導者連携につながることを期待された。
- ・本事業は、各NCに所属するAMED生物統計家育成支援事業に参加している若手生物統計家職員（2名）を対象に、**育成ノウハウのある他NCで週1日実務を行い疾患横断的な研鑽を積む環境を調整する事業**であり、JHより環境調整費等を目的にJH予算を支出するパイロット事業として令和4～令和5年度に実施した。
- ・本事業により、NC間連携の促進や、NC間連携を通じた人材育成のスキームを構築する端緒となり、将来のNCを担う人材育成に繋がることも期待される。

事業適応例

NCに入職した若手生物統計家が、1年目はAMED生物統計家育成推進事業の支援を受け、2年目からは本NC連携育成事業に参加した場合



AMED生物統計家育成推進事業により、入職1年目はAMED協力金の支給あり。
本事業ではAMED事業の支援終了後の主に2～3年目を対象に連携事業を行い、JH予算負担

期待される成果

- ・疾患領域横断的な視野が広い生物統計家が育成
- ・各NCの生物統計部門の連携が推進され、疾患領域横断的な研究が推進
- ・実務試験統計家の資格（臨床中核病院で求められる）の取得が見込まれ、本人としてもその後のキャリア形成につながる
- ・受け入れるNC側も、自NC業務を用いたOJTを行うことで、本来業務が推進
- ・本事業のサポートにより、AMED生物統計家育成推進事業で支援を受ける若手生物統計家の長期的で安定したNCへの受け入れが促進